MITSUBISHI ELECTRIC

三菱電機パッケージエアコン別売部品 ドレンアップメカ据付工事説明書

形名 PAC-SK01DM [壁掛形 PK-L形]

● このドレンアップメカは、室内ユニット左側の壁面に据付けて使用します。
● ドレンアップメカ据付けにより、ドレン配管・冷媒配管ともに上側からの取出しができます。
● ドレンアップメカの据付けは、室内ユニットの据付(位置決め)後に行ってください。
※ 据付け前に本説明書と室内ユニットの据付工事説明書をよくお読みください。

安全のために必ず守ること

・据付けは、この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
・ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
・誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの。
⚠注意	誤った取扱いをしたときに、軽傷または家屋・家財などの損害に結びつくもの。

・据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、お客様に「安全のために必ず守ること」や使用方法・お手入れの仕方などを説明し、本書をお渡しください。
・この据付工事説明書は取扱説明書とともに、お客様で保管していただくように依頼してください。
また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方にお渡しいただくように依頼してください。

⚠警告

改造は、絶対にしない。
●修理は、お買い上げの販売店にご相談ください。
改造したり修理に不備があると水漏れや感電・火災等の原因になります。

据付けは、販売店または専門業者に依頼する。
●お客様自身で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電・火災などの原因になります。

据付工事は、この据付工事説明書に従って確実に行う。
●据付けに不備があると、水漏れや感電・火災の原因になります。

据付けは、質量に十分に耐えるところに確実に行う。
●強度が不足している場合は、ユニットの落下などにより、事故の原因になります。

⚠注意

冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
●不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になります。
●接続部の断熱施工は、気密試験後に行ってください。

ドレン配管は、据付工事説明書に従って確実に排水するよう施工し、結露が生じないよう断熱処理すること。
●配管工事に不備があると、水漏れし、天井・床その他家財などを濡らす原因になります。

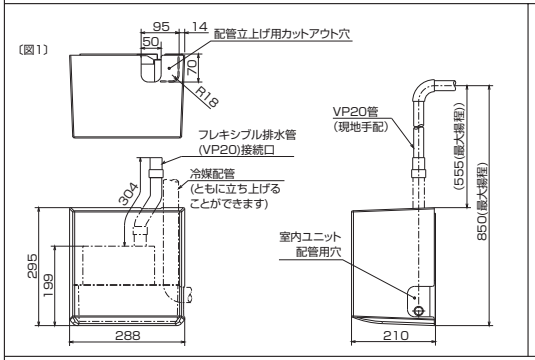
室内ユニットは必ず水平に据付けること。
●水漏れを起こし、壁面などを汚す原因になります。

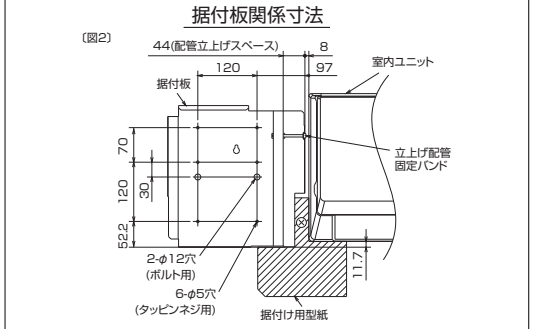
1. 付属部品のご確認(下記部品が付属されておりますので、据付け前にご確認ください)

①ドレンアップメカ	②タッピンネジ	③タッピンネジ	④ドレンホース	⑤フレキシブル排水管カバー	⑥バンド	⑦据付け用型紙
×1	(4×35)×6	(4×16)×1	×1	×1	×2	×1

※ ②～⑥はドレンアップメカの化粧カバーと本体の間に同梱されています。化粧カバーを取外してから取出してください。

2. 外形寸法、周囲必要空間(単位㎜)

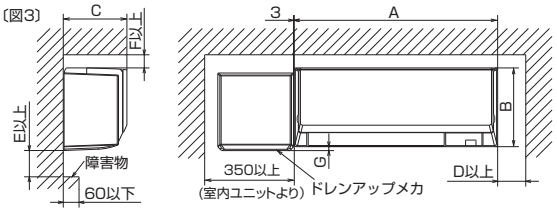




ドレンアップメカの周囲に必要な空間

	A	B	C	D	E	F※	G
PK-L形	773/898	299	237	150	250	75	15

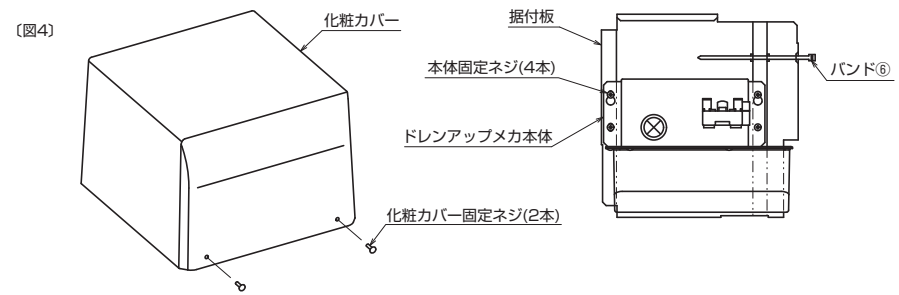
※ 天井に廻り縁がある場合は その寸法を考慮して据付けてください。



3. ドレンアップメカを据付ける前に(※始めに室内ユニット位置決めを行ってください)

3-1 ドレンアップメカの準備

● 化粧カバーとドレンアップメカ本体の背面に固定されている据付板を、それぞれ取外してください。
※ 付属品を取出してください。
● 冷媒配管を立ち上げる場合は、据付板の角穴に付属のバンド⑥を通してください。
また、化粧カバー天面のカットアウト穴をニッパーなどで切り取ってください。

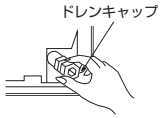


※ 取外したネジは使用します。紛失しないようにしてください。

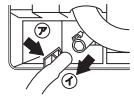
3-2 室内ユニットの準備、据付け(※室内ユニット据付工事説明書の配管接続準備の項目を参照してください)

(1) 室内ユニット左側面の左配管用カットアウト穴を開けます。

(2) 左側排水口のドレンキャップを抜きとる。
● 先端の凸部をつまんで抜きとってください。

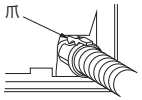


(3) 室内ユニットのドレンホースを取外す。
● ドレンホース根元㋐(矢印部)を摘み手前㋑に引き抜いてください。



(4) 右側排水口にドレンキャップを差込む。
● 先端穴にドライバーなどを差込み、ドレンキャップ根元まで確実に押込んでください。

(5) 左側排水口に付属のドレンホース④を差込む。
● ドレンホースをドレンパン接続口の根元まで押込んでください。
※ドレンホースの爪がドレンパン接続口の凸部に、確実に掛かっていることを確認してください。



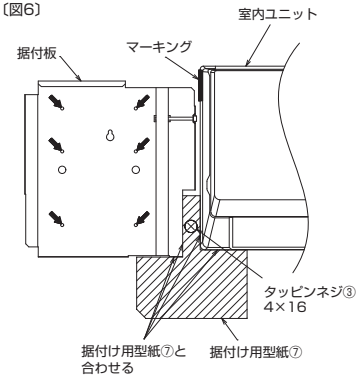
(6) 室内ユニットを据付けます。

⚠注意	室内ユニットは必ず水平に据付けること。 ●水漏れを起こし、壁面などを汚す原因になります。

4. ドレンアップメカの据付け

4-1 据付板の固定

● 据付け場所は十分検討し、強度上危険と思われる場合、板あるいは桁などで補強して据付け作業を行ってください。
(1) 付属の据付け用型紙⑦を利用して、据付板の位置を決めます。
(※ 室内ユニット左端の位置をあらかじめマーキングしておいてください)
1) 右図のように室内ユニットの左端に合わせて、据付け用型紙⑦をあてがいながら付属のタッピンネジ③(4×16)で据付け用型紙⑦を壁に固定してください。
2) 固定した据付け用型紙⑦に合わせて、据付板の取付け位置を決定してください。
(2) タッピンネジ②(4×35)を使用し、据付板のφ5穴に固定してください。
(右図中の矢印、6ヶ所)
据付板を固定ボルト(通しボルト、ボルトアンカー、ナットアンカー)にて固定する場合はM10またはW3/8ネジを現地手配して、据付板のφ12穴に固定してください。(2ヶ所)
(3) 据付板の固定が終了しましたら、据付け用型紙⑦は取外してください。
(4) 据付板の水平および室内ユニットとの位置関係を確認してください。(図2参照)

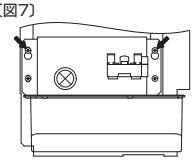


4-2　ドレンアップメカ本体の取付け

● ドレンアップメカ本体を据付板に固定します。
(1) 据付板の本体取付け用穴の内、上側の2ヶ所(図7の矢印)に取付けネジを約半分まで仮締めし、本体をネジに引っ掛け仮固定します。
(2) 水準器を使用して本体の水平を確認した後、4ヶ所ともネジを本締めして本体を固定します。

⚠注意　ドレンアップメカは必ず水平に据付けること。
●水漏れなどを起こし、壁面などを汚す原因となります。

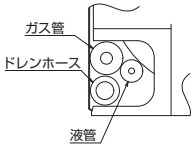
〔図7〕



5. 冷媒配管工事(※室内ユニット据付工事説明書の冷媒配管接続の項目を参照してください)

● 冷媒配管とドレン配管をまとめて立ち上げる場合
(1) 左配管の工事要領で配管工事を行ってください。
(2) 据付板の配管立上げスペース内〔図2〕に収まるように施工してください。
　● 配管工事時、室内ユニットが4−1〔図6〕でマーキングした位置からずれないようにしてください。
　● 冷媒配管の曲げRはR80以下にて施工してください。
　(曲げRがR80より大きい場合、化粧カバーが配管と干渉し取付けできません)
　● 立上げる配管は据付板の角穴に通したバンド⑥〔図4〕で固定してください。
(3) 冷媒配管を室内ユニットの左配管スペースに図8のように配置、まとめてください。

〔図8〕

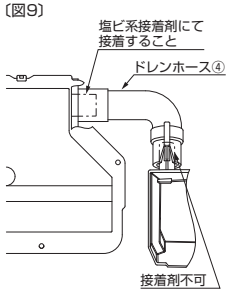


6. ドレン配管工事

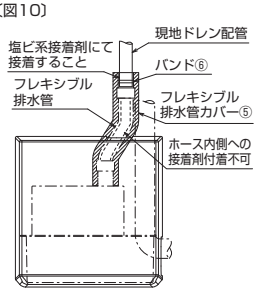
6-1　ドレンホースの接続

※接着剤は図に指示した接続部のみに塗布してください。
指示以外の接続部への接着剤の使用、フレキシブル排水管またはドレンホースのホース内側に接着剤が付着した場合、ホース破れなどによる水漏れの原因となります。
(1) ドレンアップメカ本体のドレン接続口に室内ユニット左側の排水口に取付けたドレンホース④を接続します。接続部は必ず塩ビ系接着剤にて水漏れのないように施工してください。〔図9〕
(2) 現地ドレン配管とドレンアップメカ本体天面のフレキシブル排水管を接続してください。接続部は必ず塩ビ系接着剤を使用し、付属のバンド⑥で固定して水漏れのないように施工してください。〔図10〕
(3) 付属のフレキシブル排水管カバー⑤を使用して、ドレンアップメカ天面のフレキシブル排水管を断熱してください。〔図10〕

〔図9〕

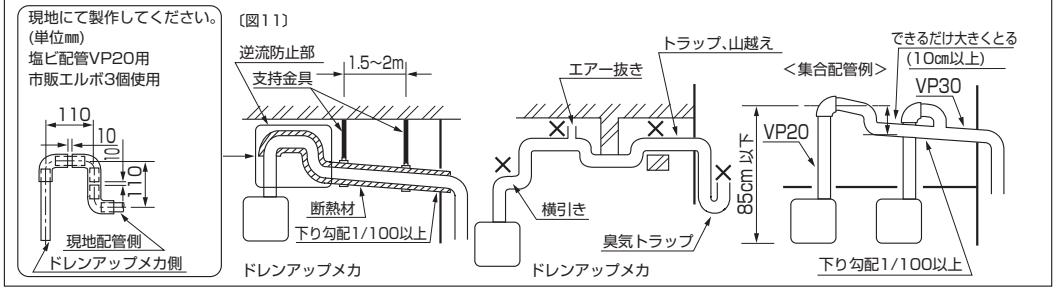


〔図10〕



6-2　ドレン配管工事

(1) ドレン配管工事は以下の項目に従って作業してください。
● ドレン配管は室外側(排水側)が下り勾配(1/100以上)となるようにし、途中にトラップや山越えを作らないようにしてください。
● ドレン配管の横引き長さは20m以下にしてください。また、途中に支持金具を設けてドレンアップメカ配管の根元に過度の荷重が加わらないようにするとともにドレン配管の波打ちをなくしてください。エアー抜き管は絶対につけないでください。ドレンが吹出ます。
● ドレン配管は硬質塩ビパイプVP20(外形φ26)を使用し、接続部は必ず塩ビ系接着剤にて水漏れのないように施工してください。
● ドレン配管には必ず市販の断熱材(発泡ポリエチレン：比重0.03、肉厚10㎜以上)を巻いて断熱してください。
● ドレン配管の排水出口部に臭気トラップを設けないでください。
● ドレン配管の出口部は臭気の発生するおそれのない場所に施工してください。
● 集合配管の場合下図のように本体のドレン出口部より約10㎝程度低い位置に集合配管(幹排水管)がくるようにし、かつ集合配管はVP30程度のもので下り勾配(1/100以上)となるよう施工してください。
● ドレン配管の出口高さ(ポンプ揚程)はドレンアップメカ下面より85㎝ですが、立上げ管の途中に横引き管がある場合、運転停止時におけるドレンの逆流量が多くドレンパンからオーバーフローしますので、ドレン配管は必ずまっすぐ、垂直に立上げてください。
また、最高部に下図のような逆流防止部を設け、横引き配管からの逆流を防いでください。



7. 電気配線工事

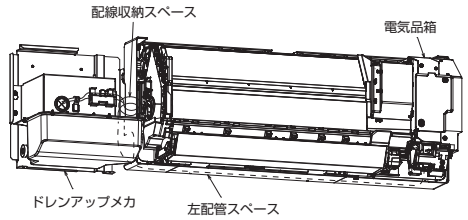
7-1　室内ユニットの準備(※電源がOFFであることを確認してから作業してください)

● 室内ユニットのパネル、電気品箱のカバーを取外します。(※室内ユニット据付工事説明書の室内ユニット設置の項目を参照してください)

7-2　配線取廻し

● 配線は右図のように室内ユニットの左配管スペースをとおし、電気品箱まで取回してください。
● リード線を室内ユニットの制御基板コネクタに接続後、リード線のあまりをドレンアップメカ内の配線収納スペースに収納してください。
(クランプ固定)

〔図12〕

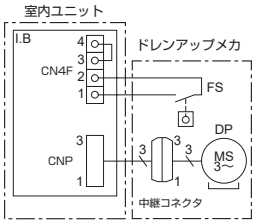


7-3　配線工事

●接続コネクタ付のリード線は制御基板のコネクタ"CNP""CN4F"にそれぞれ接続します。
このとき、制御基板のCN4F端子には短絡コネクタ(不要になります)が装着されていますので、これを取外してください。
●制御基板上に発熱体(ヒートシンク)がありますのでリード線が触れないように注意してください。

電気配線図

〔図14〕

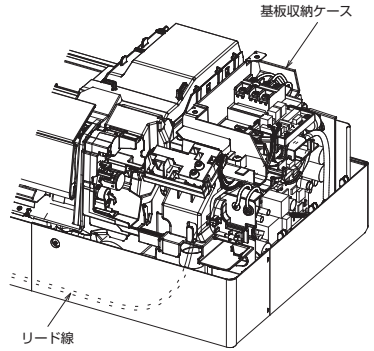


記号	名　　称
I.B	室内制御基板
CNP	コネクタ(ドレンポンプ)
CN4F	コネクタ(フロートスイッチ)
DP	ドレンポンプ
FS	フロートスイッチ

注、□、⊙⊙はコネクタ接続を示す。

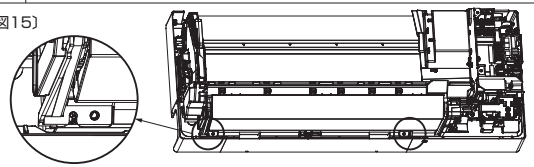
配線の取廻し(電気品箱付近)

〔図13〕



● 配線工事が終了しましたら、爪が外れていないことを確認した後、室内ユニットの電気品箱のカバー、パネルをもとどおりに取付けてください。

〔図15〕



8. 試　運　転

★ ドレンアップメカの据付け完了後、試運転により排水が確実に行われていること、各接続部からの水漏れのないことを確認してください。

(1) 注水
室内ユニットのドレンパンに約800cc注水してください。(※室内ユニット据付工事説明書のドレン配管(排水の確認)の項目を参照してください)
(※注入する水量が多過ぎるとドレンオーバーフロー保護作動による異常停止により排水できない場合があります)
(2) 試運転
室内ユニット据付工事説明書の試運転の項目に従って、冷房運転を行い排水、並びに漏水のないことを確認してください。
※暖房シーズン中にドレンアップメカを据付けた場合、ドレン抜きを行ってください。
　ドレン抜きは、本体側面ドレンプラグを取外せば行えます。このときドレンの受皿をご用意ください。
　ドレン抜きが完了しましたらドレンプラグをもとどおりにはめ込んでください。
(3) 確認後、化粧カバーをもとどおりに取付けてください。
※4-1で付けたマーキング位置と室内ユニットの左側部が合致しているか確認してください。
(化粧カバーが取付かない、もしくは化粧カバーと室内ユニットとの間に隙間が生じます)

三菱電機株式会社 静岡製作所 〒422-8528 静岡市駿河区小鹿3-18-1 ☎(054)285-1111(代表)
RH79A029L02